



第 38 号

2005年3月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



堀に囲まれた居館（久田堀ノ内遺跡 南上空から）

## 苫田ダム関連の遺跡発掘調査完了

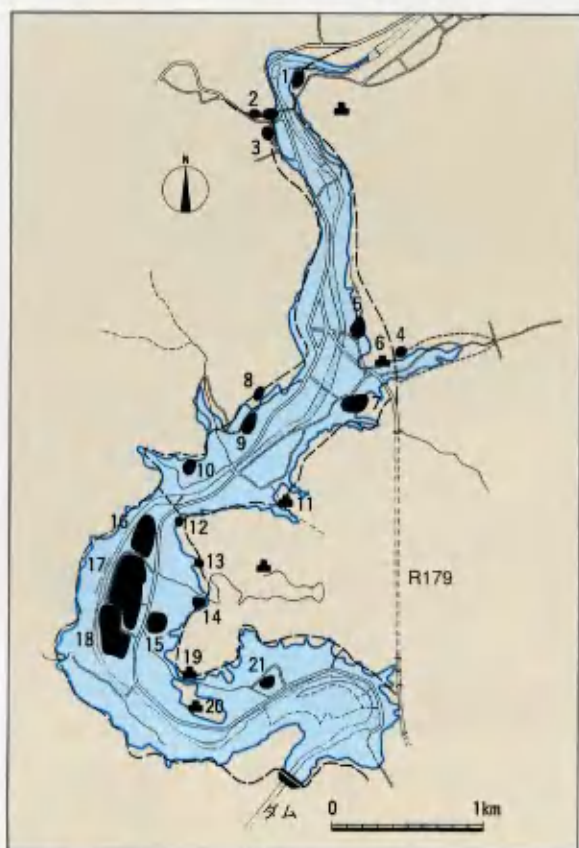
平成7年度から10年間に及んだ苫田ダム関連の発掘調査は、今年度行った夏栗遺跡の調査を最後に、全工程が終了しました。調査の対象遺跡は、湖岸道路関係10か所、水没地区11か所の計21遺跡でしたが、旧石器時代から近世まで多岐にわたる遺構・遺物を検出しています。調査面積は延べ20万㎡になり、調査員50名が調査に従事しました。

また、平成13年度に開始した報告書作成事業も今年3月で終了し、全5冊で総頁数約4,000頁にもなる報告書を刊行することとなりました。これをもって、すべての事業が完了しました。この間には、パンフレット4冊を刊行し、8回の現地説明会、奥津町での遺物展示会・スライド報告会を行うなど、調査成果の活用をしてきましたが、ここで改めて概要を報告します。

**旧石器・縄文時代** かなぼれB遺跡で出土した尖頭器は1点のみですが、今回の調査の中では最も古く、旧石器時代の遺物です。また近隣の箱E遺跡では、縄文時代早期の槍先形尖頭器が3点、押型文土器とともに出土しています。ただし、両遺跡とも遺構は確認できませんでした。



槍先形尖頭器（箱E遺跡）



- |           |           |            |
|-----------|-----------|------------|
| 1 杉正宗遺跡   | 8 ナル林遺跡   | 15 岡遺跡     |
| 2 箱E遺跡    | 9 勝の段遺跡   | 16 夏栗遺跡    |
| 3 かなぼれB遺跡 | 10 下黒木遺跡  | 17 久田原遺跡   |
| 4 丸ヶ札遺跡   | 11 久田上原城跡 | 18 久田堀ノ内遺跡 |
| 5 河内構遺跡   | 12 久田神社古墳 | 19 比丘尼ヶ城跡  |
| 6 河内城跡    | 13 北条高下遺跡 | 20 城峯城跡    |
| 7 河内遺跡    | 14 嵯畑遺跡   | 21 札ノ尾遺跡   |

苫田ダム関連遺跡（1/50,000）

縄文時代後・晩期になると、久田原・久田堀ノ内・夏栗遺跡で集落が形成され、竪穴住居・落とし穴・貯蔵穴・溝などが確認できるとともに、北陸や東日本系の土器、ひすいや九州産の石材を用いた玉、大量の石鍬など、各地との交流を物語る遺物が出土しています。

**弥生時代** ナル林・岡・久田原・久田堀ノ内・夏栗遺跡で集落が営まれています。中期～後期の竪穴住居・掘立柱建物・土壙・溝・水田などを検出していますが、久田原遺跡の竪穴住居では、碧玉の原石や管玉未成品が砥石とともに出土し、玉造りを行っていたことが明らかとなりました。夏栗遺跡の大形住居（直径8m）においては、鉄器・鉄片が61点出土し、鑿切りによる鉄器製作を行っていたと考えられます。

久田堀ノ内遺跡の微高地縁辺部では、水田面とそれを区画する畦と水路が見つかりました。これは、県北では初めての発見です。また、夏栗遺跡の中央を北から南に横断する大規模な溝も、下流域の水田への灌漑用水路であったと思われます。溝の断面は「V」字形を呈し、広いところでは幅5m、深さ2m、総延長200mに達しました。

しかし、弥生時代後期末～古墳時代初めの頃、この地方を大洪水が襲ったようです。久田原遺跡や久田堀ノ内遺跡では、厚さ2mにも及ぶ土砂が堆積していました。この洪水は、当時のムラに大ダメージを与えた一方で、縄文～弥生時代の遺構を後世の開墾などから守り、現在へと保存してくれていました。



竪穴住居と洪水砂（久田原遺跡）

**古墳時代** 久田原遺跡では、5世紀代の方墳1基をはじめとし、6世紀から7世紀代にかけての11基の円墳と土壙墓などが洪水砂上に営まれています。このように低地に古墳が見つかることは、非常に珍しいことです。また、夏栗遺跡を見下ろす丘陵の突端には、久田神社古墳が1基見つかっています。

集落は5世紀から7世紀後半まで断続して営まれており、久田原・夏栗遺跡では、竪穴住居67軒・掘立柱建物1棟のほか、土壙・溝などを検出しました。久田原古墳群・久田神社古墳と夏栗遺跡は、墓域と集落の関係のようです。

**古代** 奈良時代前後の遺構は、久田原・夏栗遺跡で見られました。主なものは掘立柱建物で、久田原遺跡北半部から夏栗遺跡に集中しており、合計69棟を数えますが、竪穴住居も数軒確認できています。この他に、火葬墓2基、製鉄炉1基、鍛冶炉3基のほか、土壙、溝などを検出していますが、特に火葬墓は、夏栗遺跡で1基、久田原遺跡で1基を検出しており、ともに人骨が遺存していました。夏栗遺跡の蔵骨器は、5世紀代の甕を身として、7世紀中頃の蓋と組み合わせています。遺物から判断すると、日本でも最古級の火葬墓となります。



蔵骨器（夏栗遺跡）

なお、久田原遺跡では陶馬・土馬、陶硯なども出土しています。また、この地方を特徴づける製鉄遺構では、製鉄炉ぎょくばた遺跡・城峪城跡しろごじょうで、城峪城跡・比丘尼ヶ城跡びくんにがじょうでは製鉄用の炭を焼成する横口付炭窯を確認しています。

**中世** 久田堀ノ内遺跡では堀に囲まれた館とそれに伴う屋敷群が、夏栗・久田原遺跡でも掘立柱建物がそれぞれ65・83棟検出されました。その中には5×4間で、床面積120㎡を超える建物が2棟ありましたが、これらは県下でも最大級の規模です。また、遺跡群を囲うように北東・東・南東の山上には、久田上原城跡・比丘尼ヶ城跡、城峪城跡といった山城が控えていました。いずれも南北朝期に築かれ、土塁や堀切、切岸によって構成された簡単な構造の城です。久田堀ノ内遺跡の館の規模は、鎌倉時代後半から南北朝の頃にかけて75×72mから95×80mへ、さらに室町時代末には182×100mと堀を埋め戻しながら拡張していきます。しかし、江戸時代初期には堀も埋められて、館の北半は集落に、その他は水田へと変わっていったようです。



掘立柱建物群（久田原遺跡）

遺物も豊富で、中国製輸入陶磁器類、瀬戸・美濃産陶磁器、常滑焼、東播磨産須恵器、備前焼、勝間田焼、在地産土師器・瓦質土器、甲冑片、刀、刀の鐔、鏃の他に和鏡が7面も出土しています。なかでも陶磁器には優品、大形品も多く、かつ、武器・武具に裏付けられる武装勢力の存在とともに、この地の重要性や周辺地域の有力守護との関わりを示すのではないのでしょうか。

このように、各時代の稀有な遺構と遺物がこの地にみられた理由は、南北交通の要衝にあったことが挙げられるでしょう。大きく変貌を遂げたこの地に立つとき、こうした歴史が存在したことを思い出してみてください。（伊藤 晃）

## センターの年間事業（平成16年度）

### 調査第一課

平成16年度の調査第一課は、第一班4名、文化財課兼務1名、第二班9名の計14名の体制で、埋蔵文化財の普及・啓発、発掘調査報告書の整理・刊行、記録保存を目的とした発掘調査（試掘・確認調査を含む）、あるいは、出土遺物や記録写真の整理・デジタル化および貸出し、さらに、インターネット版岡山県遺跡地図の公開管理とホームページの更新に加え、今年度から立ち上げた「考古学入門講座」の開催など広汎にわたる業務を担当しました。

まず、普及・啓発事業としては、今年度から実施された当センター展示室の休日開館に伴う、考古学入門講座を2回にわたって開催しました。第1回は、7月24日（土）に「考古学と発掘調査」をテーマに、スライドを使った講義と出土土器の復元や拓本実習を行いました。第2回は、募集定員を大幅に超える応募があり、1月22・23日（土・日）の二日間にわたって実施しました。講義「土器の見方」の後、土器の文様復元や、分銅形土製品作りに取り組みました。

恒例の発掘調査報告会は第17回を迎え、「県内の発掘調査報告会—大地からの便り2004—」と題して、8月28日（土）岡山県立美術館で開催しました。今回は、奥津町苦田ダム建設に伴う発掘調査を詳しく報告するとともに、初めて岡山大学考古学講座の協力を得、真備町二万大塚古墳の発掘の様子が詳しく紹介されました。さらに、市町村教委の協力を得、県内各地の発掘調査の様子をスライドで上映し、担当者による説明を加えました。ロビーに設けた最新の出土遺物展示コーナーも好評を博しました。

また、文化財課との共催事業として、11月6日（土）に津島遺跡体験講座「津島遺跡で弥生体験」を実施しました。参加者は、勾玉作りや火起こし体験に、熱心に取り組みました。

センターの普及活動の一環として、年間を通して中学生の職場体験を受け入れています。今

年度は計8校、21名の生徒を受け入れ、発掘作業体験のほか、センターや現場事務所で土器洗いや復元・接合作業に携わっていただきました。

一方、大学生のインターンシップも昨年に引き続き受け入れ、1名が発掘体験に加え、土器の洗浄・復元や、普及啓発事業の準備など幅広く高度な業務にも関わっていただきました。

第二班は、国道180号バイパス建設に伴う発掘調査（通年）と、岡山地方裁判所等建て替えるに伴う発掘調査（4～11月）と整理を実施しました。前者は、総社市南溝手・窪木遺跡の発掘調査を実施し、弥生時代以降、継続的に営まれたムラの一部が確認されました。窪木遺跡の一面からは、古墳時代後期の堅穴住居や掘立柱建物群が集中して検出され、付近からは、鉄生産や鍛冶に関連する遺物が出土しています。窪木遺跡では、11月27日（土）に「おかやま教育週間関連事業」として、現地説明会を開催しました。発掘現場の見学とともに、出土遺物や写真を展示しました。また、発掘作業の体験コーナーも人気を集めました。



弥生時代の深い堅穴住居（窪木遺跡）

後者は、弥生時代中期の遺跡として知られている岡山市南方遺跡の発掘調査を実施しました。今回の調査では、初めて弥生時代後期の袋状土壇群（貯蔵用の穴？）が多数発見され、注目されています。

確認調査としては、稲穂遺跡（美作町）、中町B遺跡（大原町）、川入遺跡（岡山市）、茶畑たたら遺跡（奥津町）、市町村指導として定月遺跡他（鴨方町）を行いました。（岡田 博）

## 調査第二課

第一班が一般県道吉備津松島線道路改築に伴う発掘調査、報告書整理（仏生田遺跡、中撫川遺跡：岡山市）、苦田ダム建設に伴う発掘調査（夏栗遺跡：奥津町）、報告書整理・刊行（久田堀ノ内遺跡ほか）、国道374号線（美作岡山道路）改良に伴う発掘調査（稲穂遺跡：美作町）を担当しました。第二班は、都市計画道路竹田升田線街路改築に伴う発掘調査（中島城跡ほか：岡山市）、一般県道三浦勝北線道路改築に伴う発掘調査（姥ヶ辻遺跡：勝北町）を担当しました。

仏生田遺跡は、4～6月に1区と4区を調査しました。1区では、古代の溝、弥生後期の井戸や溝を、4区では弥生後期～中世の溝・土壌などを検出しました。中撫川遺跡は、新幹線の高架下部分を12～2月に調査し、弥生後期～古代の溝群などが確認されました。特に、古代の溝からは、奈良時代の須恵器や土師器と共に、県内では数例しか見つかっていない銅製の鏡が出土しました。

苦田ダム関連では、最後まで残っていた夏栗遺跡の調査を5月に行い、10年に及んだ調査はこれで終了しました。また、久田堀ノ内遺跡・箱E遺跡ほか・夏栗遺跡の報告書整理は、昨年に引き続いて実施し、3冊の報告書を刊行しました。12月11・12日（土・日）には、奥津町で総括的な遺物展示とスライド報告会を行い、地元をはじめ多くの参加がありました。

稲穂遺跡は、9・10月に調査を行い、古代の掘立柱建物や溝などが多数確認されました。

中島城跡は、昨年に引き続いて4～1月に調査を行い、遺跡の南西部では、幅5～11m、深さ約2.5mの堀に囲まれた館跡と思われる遺構が確認されました。この館跡は、中島城が存在していた頃と同じ時代であるため、『備前軍記』に名前が出てくる中島城の可能性がります。また、宮南遺跡は8～12月と3月に、五反地・国長遺跡は3月に調査を行い、2月には竹田地区にも確認調査を実施しました。

姥ヶ辻遺跡は、5・6月に調査を行い、古墳時代の竪穴住居などを確認しました。（中野雅美）

## 調査第三課

### 本年度の事業概要

発掘調査及び確認調査は、本書末頁の一覧のほか、全部で17遺跡（うち全面調査は10遺跡）が対象になりました。また、報告書の整理・作成は、美作岡山道路建設の来光寺跡ほかを11か月、国道374号線改良の宮ノ上遺跡ほかを9か月間実施し、それ以外の中国横断道路姫路鳥取線建設・国道429号線改良・県立病院建設・国道179号公共交通安全設備整備の各事業を、発掘調査に引き続いてそれぞれ3か月・6か月・5か月・3か月間実施しました。

### 発掘調査成果の概要

百間川兼基遺跡は、弥生時代中期中葉から古墳時代前期にかけての集落変遷が比較的良好に捉えられています。なかでも、調査区付近では後期末に広くこの一帯を襲った大洪水が微高地上にも及び、洪水砂に覆われた下から見つかった廃絶間もない竪穴住居や井戸、水田や水路などは、ほぼ同時期の集落景観が復原できる資料として特筆されます。（所報前号参照）

また、百間川今谷遺跡は、島状高まりの間に展開する弥生後期末の洪水砂に覆われた、水田がおもに検出されています。

中町B遺跡は、約40×180mの調査区のほぼ中央部に、南北方向の長辺に沿って幅約6m隔てて併行する2条の溝（それぞれの溝は重複）が、約160mに渡って続いていました。この遺構は、その特徴から道路の蓋然性が高く、土層関係からいけば時期は中世以前に比定されます。さらに、その規模や構造に加えて山の麓を直線的に狙った立地などに計画性がうかがえることから、古代の因幡道と断定してもよさそうです。ほかには、弥生時代後期初頭の竪穴住居1軒、中世の柱穴や土壌などが多数検出されています。また、遺物は包含層中から多数の中世土器片や数十片の縄文後期土器が、住居の覆土から多量の弥生土器がそれぞれ出土しています。今岡中山遺跡は、標高245m（比高差約30m）の低丘陵上にあり、弥生後期の竪穴住居や段状遺構、7世紀の横穴式石室の一部と周溝、古墳時代～



古代の道路（中町B遺跡 上空から、左が北）

古代の竪穴住居などが検出されました。遺物は、段状遺構に土器溜まりが形成されていたほか、横穴式石室の床面近くから鉄鏃、周溝埋土から破碎須恵器片などが出土しました。八幡B遺跡は近世の寺の一部、八幡山南遺跡は弥生の段状遺構、鍛冶炉と鉄滓を伴う古代の作業面などを検出しています。

南方遺跡は、旧国立岡山病院の一部を調査し、おもに弥生時代中期中葉の多量の土器片を伴う

土壙を多数検出しています。

井手天原遺跡は、古墳時代初頭の竪穴住居4軒と同後期の竪穴住居3軒、古代の建物3棟、中世の建物2棟と土壙墓2基などが見つっています。なかでも、古墳時代初頭の住居の掘り方が深さ1mにも及ぶなど残存がよく、住居構造を追究するうえで大いに注目されます。

鹿田遺跡は、第三次目の調査を実施し、古代～中世の井戸8基、建物2棟、土壙数基などを検出しました。出土遺物に数片の緑釉陶器や灰釉陶器があり、この一帯に比定される鹿田荘との関連が予測されます。

釜屋遺跡は、現道に沿う幅3.5×約200mの範囲を調査し、古墳時代後期の竪穴住居2軒、古代の掘立柱建物1棟、古代～中世の土壙数基や柱穴多数を検出しました。遺物は、地元の勝間田焼の土器片が、おもに包含層から比較的多く出土しています。（柳瀬昭彦）

センターの活動から

## 地域や学校とのふれあい

当文化財センターが今年度実施した現地説明会は、7月の中島城跡（岡山市）に始まり、10月に稲穂遺跡（美作町）、11月の中町B遺跡・今岡中山遺跡（大原町）と窪木遺跡（総社市）、平成17年1月の百間川兼基遺跡（岡山市）と6遺跡5回でした。

中島城跡では、ひとの背丈をはるかに超える深さの堀と、それに囲まれた掘立柱建物群が発



深い堀をのぞき込んでいます（中島城跡）

見され、戦国時代に築かれた中島城である可能性が考えられます。

夏本番の暑さの中、参加者の皆さんには、堀や建物の大きさを体感していただいたほか、柱穴や土壙を実際に発掘する体験会場も開設しました。

稲穂遺跡は、丘陵裾部の狭い調査の範囲でしたが、古代の掘立柱建物群が発見されました。



白線は古代の大形倉庫です（稲穂遺跡）

中には大形の倉庫もあり、古代の役所の可能性が考えられます。当日は、階段状に造成した各段の建物を見学していただきました。

中町B遺跡では、古代の因幡道と考えられる遺構が見つかりました。調査区に沿って2条の溝にはさまれた道が延びていて、かつてさまざまな思いを胸に、行き交った人々の姿がしのべられます。



古代の因幡道を踏みしめて（中町B遺跡）

中町B遺跡から歩いて15分、智頭急行線のトンネルが抜ける丘陵上に登ると、そこが今岡中山遺跡です。弥生時代後期のムラのような、今回の調査で新たに見つかった古墳（横穴式石室の一部）を見ていただきました。

窪木遺跡では、現場見学とともに、これまで4年間にわたって調査した関連遺跡群の遺物や写真を展示しました。中島城跡と同様に発掘体験も行い、多くの皆さんが柱穴の検出作業や遺構の掘り下げに挑戦してくださいました。



ただいま発掘体験中（窪木遺跡）

百間川兼基遺跡では、弥生時代のムラが見つかりました。住居と建物が密集していて、さながら町中のような様子です。参加者の皆さんには、家々の間を縫って廻りながら、今から約2,000年前のにぎわいに心を馳せていただきました。



密集した家々の間を歩く（百間川兼基遺跡）

この他にも、文化財センターと各現場では、小学生の見学や、中学生の職場体験を受け入れています。現場での職場体験は、実際の調査同様にいろいろな道具を使っての作業を行います。初めての力仕事に肉体的なつらさを覚える生徒もいますが、自らの手で土器を見つけることで、日常生活では得られない新鮮な感動をおぼえたようです。



中学生の職場体験（窪木遺跡）

今後も、当センターでは、できる限り多くの遺跡で現地説明会を開催したいと考えています。また、発掘体験など、じかに遺跡に触れていただくための工夫も重ねていきますので、興味のある方は、調査現場に足を運んでいただきたいと思います。（氏平昭則・高田恭一郎）

# 岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧（平成16年度）

遺跡名	所在地	調査原因	種別	遺跡の内容	調査期間	調査面積
1 川入遺跡	岡山市川入	一般県道川入巖井線道路改築	確認	(包蔵地確認されず)	6.14~6.18	40m <sup>2</sup>
2 中町B遺跡	英田郡大原町中町	国道429号特殊改良1種	確認	中世の集落	6.22~6.25	80m <sup>2</sup>
3 稲穂遺跡	英田郡美作町稲穂	国道374号線(美作岡山道路)改良	確認	古代の集落	7.5~7.9	138m <sup>2</sup>
4 茶畑たたら遺跡	苫田郡奥津町奥津川西	一般国道179号公共道路改築	確認	近世たたら	10.12~11.2	40m <sup>2</sup>
5 南溝手遺跡ほか	総社市南溝手ほか	国道180号総社バイパス建設	全面	弥生時代~近世の集落	4.1~3.31	13,157m <sup>2</sup>
6 南方遺跡	岡山市南方	広島高裁岡山支部・岡山地家簡裁庁舎建替	全面	弥生時代の集落	4.1~11.30	3,399m <sup>2</sup>
7 仏生田遺跡ほか	岡山市納所ほか	一般県道吉備津松島線道路改築	全面	弥生時代~中世の集落・水田	4.1~6.30・12.1~2.28	996m <sup>2</sup>
8 夏栗遺跡	苫田郡奥津町夏栗	苫田ダム建設	全面	縄文時代~近世の集落	5.6~5.8	80m <sup>2</sup>
9 稲穂遺跡	英田郡美作町稲穂	国道374号線(美作岡山道路)改良	全面	古代の官衙関連遺構	9.1~10.31	635m <sup>2</sup>
10 中島城跡ほか	岡山市中島ほか	都市計画道路竹田升田線街路改築	全面確認	中世~近世の集落	4.1~3.31	7,146m <sup>2</sup>
11 姥ヶ谷遺跡	勝田郡勝北町市場	一般県道三浦勝北線道路改築	全面	古墳時代の集落・近世の祭祀遺構	5.6~6.18	250m <sup>2</sup>
12 百間川兼基遺跡ほか	岡山市兼基ほか	旭川放水路(百間川)改修	全面	弥生時代~中世の集落・水田	4.1~3.31	3,211m <sup>2</sup>
13 南方遺跡	岡山市南方	新総合福祉・ボランティア・NPO会館(仮称)等整備	全面	弥生~古墳時代の集落	5.1~6.30	190m <sup>2</sup>
14 中町B遺跡ほか	英田郡大原町中町ほか	中国横断自動車道姫路鳥取線(鳥取自動車道)建設	全面一次	弥生時代~中世の集落・古墳	4.1~12.31	8,649m <sup>2</sup>
15 井出天原遺跡	総社市金井戸	国道429号線改良	全面	古墳時代~中世の集落	4.1~9.30	2,460m <sup>2</sup>
16 鹿田遺跡	岡山市鹿田	県立岡山病院建替	全面	古代~中世の集落・近世の水田	8.1~10.31	3,400m <sup>2</sup>
17 釜屋遺跡ほか	勝田郡勝央町黒土	一般国道179号公共交通安全施設整備	全面	弥生時代~中世の集落	10.1~12.31	800m <sup>2</sup>
18 田尻遺跡	和気郡佐伯町田賀	美作岡山道路建設	確認	中世の包蔵地・近世以降の集落	12.6~12.15	47m <sup>2</sup>
					総計	44,718m <sup>2</sup>

本書に掲載した所在地は、平成16年12月末現在のものです。



編集・発行

## 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

- 交通案内 ・JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分  
・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業務時間 AM 8:30~PM 5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM 9:00~PM 5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。  
ただし、臨時に休館することがあります。